



入居者の危険物、どこまで管理？

現場の安全を確保するために

大阪市平野区の老人ホームで2021年11月、1人で当直勤務中だった女性職員(当時68)が男性入居者(同72)に殺されたのは、施設内の安全対策が不十分だったからだとして、女性の遺族らが2月、施設の運営会社に約3950万円の損害賠償を求めて大阪地裁に提訴したという事件があった。毎日新聞の報道では、本件をカスタマーハラスメントの問題として捉えているが、事件の概要をみるに最も問題となるのは表題、つまり入居者が金づちなどの危険物を持ち込むという事態にどこまで対処し、また対処できるのかということではないかと思われた。過去に経験したケースも交え、解説する。

事件の経緯と背景

11月17日早朝、前日から1人で夜勤に入っていた職員が、1階事務所で死亡しているのが発見された。頭や顔に殴られた痕が複数あった。

同じ頃、老人ホーム敷地内の駐車場で別の遺体(入居者の男性)も見つかった。自室から転落死したとみられる。入居者の部屋から血の付いた金づちが見つかった。

職員と男性の間にトラブルは確認されなかった。一方、男性は事件の約2週間前、郵便物を巡るやり取りで激高して椅子を蹴り飛ばし、職員にぶつける暴力行為をしていた。3日前にも、浴室でトラブルになった他の入居者を殴る蹴るなどしており、施設を退去する方向で手続きが進んでいた。



7月19日、高齢者住宅新聞様主催の展示会にてセミナー講師をする外岡潤。

外岡新聞

8月号

弁護士法人おかげさま
〒160-0023
東京都新宿区西新宿
8-9-14 ベイペリー
202号
http://okagesama.jp
TEL:03-6555-3437
FAX:03-6730-6140



×BB株なる新たなコロナウイルスが現場を苦しめていきます。一方コロナの扱いは5類になった以上、対処法は現場任せで確たるマニュアルが統一されていません。そのような中BBCCをどう策定すべきか、再考する必要があります。



☆: 外岡潤

○: 有料老人ホームの施設長

○: 痛ましい事件ですね。津久井やまゆり園の殺傷事件を思い出しましたが、入居者が職員に危害を加えることもあるのですね。

☆: 男の居室からは「職員を殺害後、ホームに火をつけて他の入居者も殺し、自殺する」との計画を記したノートも見つかったそうです。

○: 恐ろしい…決意をもって実行されたら、施設は無防備ですからどうしようもありません。施設ではどのような防犯措置をしていたのでしょうか。

☆: 裁判では「事務所には内鍵があり、防犯カメラを付けていた。男性が起こしたトラブルも従業員に周知し、適切な対応を取っていた」と主張しているそうです。

○: ふーむ、状況がよく分かりませんが、でも鍵のない環境も多々あるでしょうし、カメラで撮っても結局は証拠にしかありませんから、確信犯に対しては無力ですね。

☆: そうですね…。難しいところですが、本件の一番の問題は、施設管理権として事前にどこまで入居者の私物チェックや管理ができるかという点であると考えます。

○: なるほど、空港の荷物チェックみたいに、危険物を持ち込まれないか確認することが許されるかということですね。

☆: そうです。しかし見方によっては金づちも実用品であり、「趣味の工作に必要なんだ」と言い張られたら禁止は難しいかもしれません。入居者の自立度が高くなるほど、裁縫用の鋏や調理用包丁、チャッカマンなど、いざとなれば凶器になる物は幾らでも持ち込むことができるでしょう。

○: 一律に危険物禁止とすることは実効性が低そうですね。では、本件のように危険が認められる入居者について、特別に居室の立ち入り検査等をするというのは？

☆: 入居者にもプライバシーがありますから、難しいですが職員の命を守るためにはそうも言っていないこともあると思います。実は以前、顧問先のホームで似たようなことがあり、男性入居者の部屋のベッド枕の下にカッターが隠されていた、という報告がありました。

外岡新聞

8月号

弁護士法人おかげさま
〒160-0023
東京都新宿区西新宿
8-9-14 ベイベリー
202号
http://okagesama.jp
TEL:03-6555-3437
FAX:03-6730-6140



(続き) 弊所では、この感染PCRも含め外岡流のひな形と作成の解説動画を近日常に無料配布する予定です。夏休みの宿題と思いきわく魂込めまですので、ユーチューブで配信するときは是非拡散して頂けると嬉しいですよ！

- : それは怖いですね…事前に見つけてまだよかったのかもしれませんが、結局どうなりましたか。
- ☆: 「これで職員を刺してやる」といった発言もあったので、そのようなことはしないよう現場に行き直接嚴重注意しました。ただ警察にも助けを求めましたが、「まだ事件化していないので動けない」としか言われませんでした。
- : 警察はやはり役立たないのですね。そうすると自衛しかないことにはなりますが、精神病院に送ることもハードルが高そうですし、施設としては本当に困ってしまいますね。
- ☆: そうなんです。最終的にはそのような脅迫的言動や暴力行為が見られることを理由に手荷物検査をさせてもらい、危険物は没収するというところまで踏み込む他ないかと思えます。
- : 反抗的な入居者が、言うことを聞きますかね。
- ☆: 今回のように事件が起きてからでは遅いので、応じてもらえないのであれば契約解除し退去を求めていく他ないものと思えますね。ただ、本件でも退去させる方向で手続が進んでいたということですから、即日追い出すわけにもいかないところどうしても危険な状態というものは残ってしまいます。そんなときはやはり精神保健福祉法に基づく措置入院や警察の出番と思えますし、そのように他機関が助けをくれなければ介護施設は成り立たないといえるでしょう。
- : 分かりました。ともかく、何が起きてもおかしくないという認識で警戒を緩めないことが必要ですね。少なくとも現場で内側からロックでき職員が逃げ込める部屋を用意し、緊急通報システムを導入したいと思えます。また、夜勤が完全に1人にならないようシフトを見直してみます。
- ☆: 極論、人を増やす人件費を入居者の家族に請求するということも考えられると思えます。民間の警備会社でも良いですが、この入居者のせいで生じたコストですから。ただそれは現実には回収が難しい話ではあると思えますが…

知っておきたいニュース：特養が迎え行かず、独居男性死亡

短期入所予定6日後に発見 (7月26日)



大阪市の特別養護老人ホームが、ショートステイを予約していた80代独居男性を予定した日に迎えに行かず、男性が6日後に自宅で亡くなった状態で見つかったことが分かった。法人はデータ管理ミスが原因だとして、遺族に謝罪した。亡くなったのは生活に介助が必要な要介護5の認定を受けていた男性。15～21日を予約したが、12日に利用システムのトラブルが発生。復旧に伴うデータ確認作業で、施設側が男性らの予約情報を見落とししたという。

ITは便利だが万全ではない。まして災害に備えるBCPを策定するときには、普段のシステムが使えない事態を想定して対策を考えたおかなければならない。本件はIT活用の落とし穴として大きな教訓になるといえるだろう。

一方で、迎えに行かなかったことでこの利用者の死亡の責任まで施設が負うべきか、という因果関係の問題は残る。通常であれば家族等がおかしいと思えば連絡を取り、放置されないはずといえるからだ。高リスクな利用者に関わることを余儀なくされる施設にとって悩ましい問題だ。

趣味の部屋



最近、訳あってこの歌をギターで弾き歌いできるような練習したのですが、普通の童謡にみえて面白い誕生秘話がありました。

この歌は坂本九さんが歌い大ヒットしましたが、生みの親は早稲田大学人間科学部名譽教授の木村利人さんという方。

学生時代フイリピンでボランティア活動をしていた際に原曲(アメリカ民謡?)を耳にし、帰国するとき旧約聖書の詩篇を参考にして詞をつけたそうです。

これが仲間内で歌われていたのを偶然坂本九が耳にし、作曲家の元にうろ覚えのまま持ち込み、それを元にレコード化しました。

この時点では制作側では作詞者が分かっていなかったため、当時は「作詞・作曲者不詳」と書かれていました。作詞・作曲者についてじっくりとした木村さんが名乗り出、それ以来作詞者としてクレジットされたこととです。

歌詞について、昔からちよつと日本古来の土着的な感じがしなかったのですが、なるほど、キリスト教由来と知り何となく納得。それにしても木村さんと坂本さんが喧嘩にならなくて良かった…と勝手にほつとしています。

歌詞は、なんと12番まで存在するそう。皆さん何番まで歌えますか？

編集後記

この酷暑はどこまで続くのか、異次元の世界に突入した感のあるここ数日ですが、皆さまご体調はいかがでしょうか▼ここにきてコロナがじわじわと感染拡大しつつあり、さりとてマスクで炎天下を歩けば倒れてしまいます。現場の皆様は本当に大変な思いをされていることと思えます▼小職はおかげ様で元気ですが、現地訪問してのセミナーも増えてきました。車内はまるでサウナですが、負けずに頑張りたいと思えます。